

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	教授 後 藤 敏 文	1 学期	月	4
◆ 講義題目	ウパニシャッド選				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、スィンタクス、韻律）に注意しつつ、古インドアーリヤ語（サンスクリット）習得に努める。インド思想史の諸概念の理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>一般に中期韻文ウパニシャッドに分類される『カタ・ウパニシャッド』IV－VI章を講読する。言語は既にヴェーダ語ではなく、中期インドアーリヤ語の影響も浮上する。仏教との関連で注意すべき概念も現れるなど、思想史的にも重要である。古インドアーリヤ語史とインド思想史の両観点から精密に検討する。能力、段階に応じて、予習、復習、二次文献の検証に力を入れること。これを終えた場合には、タイトティリーヤ・ウパニシャッドに進む。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と学習成果とによる。				
◇ 教科書・参考書	諸版を勘案したプリントを用意する。入手可能な限りの諸版、諸研究を参考にする。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	教授 後 藤 敏 文	2 学期	月	4
◆ 講義題目	仏教文学選				
◆ 到達目標	古典サンスクリット（とその逸脱形と）について、文献学的・言語学的訓練を行う。仏教とその背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の文学作品の一つといわれる Āśvaghoṣa 作 Buddhacarita を読む。毎回出席者全員に順番に訳してもらおう。機会に応じて研究や、二次文献調の検証をも課題としたい。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	Johnston 版を基礎にする。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 Ⅲ	2	非常勤講師 岩 崎 良 行	集中 (1)		
◆ 講義題目	インド文法学入門				
◆ 到達目標	史上最古にして最も体系的とされるパーニニ文法 (B.C 5 - 4 C頃成立) の構造と方法を理解する。インドにおけるサンスクリット語の伝統的な学習方法に則り、すなわち実用的見地から、文法規則の基本的な運用を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『パーニニストラ』(Aṣṭādhyāyī) [約4000規則] の入門書として定評あるヴァラダラージャ (A.D.17C) 著『簡約・定説の月光』(Laghusiddhāntakaumudī) [約1200規則] を講読する。適宜『ヴァールッティカ』『マハーバーシャ』『カーシカー註』等の古典的注釈書に論及して文法学の歴史的展開に留意しつつも、もっぱらインドの伝統に準じて規範的な文法体系としてとらえ、その構造と方法の理解に努める。その上で、文法規則の実践的な運用に慣れることを目的とする。1. 文法用語 (samjñā) を講読した後は通読にこだわらず、適宜必要なメタ規則 (paribhāṣā)、通則・排除規則 (utsarga - apavāda)、主題提示規則 (adhikāra) 等を解説しつつ、2. 連声 (sandhi)、3. 名詞曲用 (sUP-anta)、4. 動詞活用 (tiN-anta)、5. 複合語 (samāsa) の各々について数例の語形成 (prakriyā) を実習する。予習は不要だが暗記を中心とする復習には力を注いで欲しい。				
◇ 成績評価の方法	授業後にレポートを課す。与えられた単語 (pada) の語形成 (prakriyā) を文法規則を正しく運用しながら図式化して記述できるかを測る。授業参加の意欲も考慮する。				
◇ 教科書・参考書	インドで出版された廉価版を用意する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	教授 後 藤 敏 文	1 学期	水	5
◆ 講義題目	リグヴェーダ選				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献『リグヴェーダ』の研究。今学期はアバーム・ナパート「水たちの孫」に捧げられた X30, II 35及び関連箇所を題材とする。予習復習には、Aufrecht, Graßmann, Geldner, Mayrhofer, AiG はじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業時に示される能力による。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 Ⅱ	2	教授 後藤敏文	2学期	水	5
◆ 講義題目	アヴェスタ研究				
◆ 到達目標	ヴェーダ語の知識を基礎に、新アヴェスタ語原典を文献学的・言語学的に扱う能力を習得する。インドイラン共通時代の言語、文化、宗教を研究するための方法を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	Yašt 13 (フラワルディーーン・ヤシュト) を題材に、新アヴェスタ語文献の文献学的訓練に努める。インドイラン語派の文法、文化、宗教の理解にとって欠かせない原典の一つであるとともに、印欧語比較文法の基本資料の一つでもある、という側面に重点を置く。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と学習成果とによる。				
◇ 教科書・参考書	Geldner, Bartholomae, Reichelt, Kellens, Hoffmann-Forssman, Hoffmann, Narten をはじめ基本的研究を総動員する。当該 Yašt に関する参考文献等は授業時に紹介する。				
その他： 相当に根気と知的能力の発揮とを要する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 Ⅰ	2	教授 桜井宗信	1学期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol. 2 (東洋文庫刊), pp. 1 -37				
その他： 「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 Ⅱ	2	教 授 桜 井 宗 信	2 学 期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前学期に引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol. 2 (東洋文庫刊), pp. 1-37				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 Ⅲ	2	非 常 勤 講 師 斎 藤 明	集 中		
◆ 講義題目	Bodhicaryāvatārapañjikā の原典講読				
◆ 到達目標	テキスト (Bodhicaryāvatārapañjikā, 以下BCAPと略) の精読をふまえ、その正確な理解とともに、中観思想史における著者Prajnakaramati (950-1000頃) の位置づけを再考し、確認することをめざす。				
◆ 授業内容・目的・方法	Prajñākaramati (950-1000頃) 作の『入菩提行論注釈』(BCAP) は、後期のインド仏教のみならず、カダム派を中心として、チベット仏教においても多大な影響を残した。 この授業では、10を数えるBCAの注釈文献の中で、唯一サンスクリット本が伝承されている本文を対照とし、その最重要章である第9章の中の二真理 (二諦) 説、大乘仏説論、自己認識論批判、および我批判の箇所を講読する。その上で、当該箇所に見られる著者の思想を分析し、中観思想史における位置づけを再考する。授業は、講読を中心としながら、適宜、講義をはさみながら進めたい。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%] ・ () その他 [%]				
◇ 教科書・参考書	教科書：BCAPは de La Vallée Poussin 校訂本 (Vaidya 本も可) を底本とし、適宜、写本を参照する。注釈の対象となるBCAについては、Minayev 校訂本を随時、使用する。 参考書：BCAについては、以下の2書を参照。 ・金倉圓照『悟りへの道』(サーラ叢書9) 平楽寺書店、1965。 ・K. Crosby and A. Skilton, The Bodhicaryāvatāra : Santideva, Oxford University Press, 1996。 BCAの新旧両本については、以下の書他を参照。 A. Saito, A Study of Akṣayamati (=Śantideva)'s Bodhisattvacaryāvatāra as Found in the Tibetan Manuscripts from Tun-huang (Research Report of the Grant-in-Aid for Scientific Research (C)), Mie University, 1993.				
その他：「サンスクリット語文法を修得した者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅰ	2	教授 桜井宗信	1学期	水	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるというインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOŚLABHASYA OF VAŚUBANDHU Chapter 1 Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。 ※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	水	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるというインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHASYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。 ※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					